

運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 大垣北高等学校 学校運営協議会（第2回）
- 2 開催日時 令和7年10月3日（金） 13：30～15：30
- 3 開催場所 大垣北高等学校会議室
- 4 参加者

会 長 田村 弘司 副会長 安藤 光男 委 員 種田千佳子 原田 理人 牧岡さつき 吉田 孝博	元岐阜県教育委員会教育次長 元岐阜県高等学校長協会 会長 本校 同窓会会長 （株）種田石油店 代表取締役社長 岐阜協立大学 学長 大垣市男女共同参画推進室 室長 本校育友会 会長
学 校 側	酒井 猛 校長 寺倉 新一 事務部長 曾根 章好 教頭 松野 智博 教務部長（教務主任） 足立 郁子 進路支援部長（進路指導主事） 中島 啓 生活充実部長（生徒指導主事） 安倉 健司 図書情報館部長 近藤 健二 探究推進部長
<欠席者>	
委 員	伊藤三枝子 清流の国ぎふ女性防災士会 会長 兒玉 榮一 本校同窓会 前会長 山田 治美 大垣市立北小学校 校長
学 校 側	名和 憲一 教頭

5 会議の概要（協議事項）

(1) 「令和7年度 教育指導の重点及び学校経営計画」中間報告について

意見1：すぐーは誰が登録しているのか。登録の時期はいつか。

⇒本校生徒・保護者の全員が登録している。4月初めに登録手続きを行う。

意見2：紙の保護者宛て文書は、保護者にどれだけ届いているか。あまり届いていないのではないか。家庭で情報共有できるよう、できるだけペーパーレス化を進めてほしい。タブレット端末を使ったSD探究の授業やプログラミングなどの情報の授業を行っていることとの大きな差があるような気がする。小テストは今でも紙で実施しているのか。ペーパーレス化は業務の効率化につながる。進めてほしい。

⇒国語や英語は基本的には紙である。書くことが大事なこともある。

意見3：進路指導の領域に関してだが、土日の職員はどのように割り当てられているのか。

⇒オオキタサポーターは卒業生が務めている。その管理や土曜特講の担当は、基本的に職員に募り、立候補してくれる職員を充てる。育友会から手当てを出している。

意見4：今日参観した情報の授業を選択しているのはどんな生徒か。

⇒2年生全員が履修している。

意見5：タッチタイピングができる生徒とできない生徒がいる。

⇒今は、AIがあるからタイピング入力のをあげる必要はない。音声入力があるからタッチタイピングも必須ではない。実際、プログラミングについてもAIが即座に作ってくれるが、生徒にイメージをもたせるには、プログラミングを学習することは必要なことである。他方、英語教育において、TOEICやTOEFL受験のためには、タッチタイピングが必要である。

意見6：SD探究の時間に、タブレット端末とスマートフォンの両方を使っていたが、どう使い分けているのか。

⇒成果物をタブレット端末で、調べ物をスマートフォンで行っている生徒もいる。

意見7：来年からタブレット端末が自前になるという話だが影響はあるか。

⇒現在は県のものを貸し出しているが、来年からBYOD (bring your own device) となり、スペックに条件はあるものの、自宅にあるタブレット端末を持ってくるができる。ない家庭は県のサイトで購入できる。

意見8：情報リテラシー・情報モラルについての取組みはどうか。先ほどのペーパーレス化に関連して、保護者にはSNSは有効である。学校ではSNSはタブーと教えられているが、防災関係では有意義である。

⇒県では、生徒と教員の間でのSNSアカウントの交換を禁止している。

意見9：AI利用の指針はあるか。教育のプロセスではどのように活用できるのか。

⇒生徒にアカウントが付与されている。英語科と国語科において、英作文や小論文の添削指導に活用できる。生成AIの利活用について、9月に職員研修を実施した。生徒に使わせる前に教員が学ぶ必要がある。学校ではMicrosoftのCopilotを使うことができる。授業中にあえて使わずにやることも大切である。

意見10：AIの使い方次第で、探究的な学びの考え方が一部消えてしまわないか心配である。また、教室はきれいだが、教育環境の改善を求めたい。教室自体も狭いが、生徒間も狭い。教室も暗く感じる。人間も生き物なので快適な距離感がある。教室では何人の生徒が学んでいるのか。

⇒教室の大きさは昔と変わらない。40人前後の生徒が入っている。

意見11：生徒はタブレット端末を使っているとき、暗い部屋で小さな文字を暗い画面で見ている。教科書やノートに加えてタブレット端末を机の上に置かなければならず、あまりに作業スペースが狭すぎる。このことは、是非とも、県教育委員会に言うべきである。ルールがあることは承知しているが、誰かが声を挙げなければ変わらない。

⇒承知した。

意見12：図書の貸し出しに関連するが、朝井リョウさんや中村航さんは、本校の卒業生である。二人を呼んで講演会などを行ったら、図書館の利用も促進されるのではないか。

⇒昨年度、130周年記念事業の一環として、中村航さんに来てもらい、朝井リョウさんには、ビデオ出演してもらった。

意見13：北高祭ではキッチンカーの出店などでお世話になった。育友会の飲料販売の際、生徒が言った言葉に感性を感じた。生徒の注文時、保護者がペットボトルの水を拭いて手渡す作業をしていたら、「親さんの連携プレーがめっちゃ早い」と感心していた。効率性を見ている生徒が多いと気づいた。このことはAIの利活用にも関わる。AIを使って最短距離の情報交換ができるけれども、学校では、AIによるものではない、生徒自身の主観を育ててほしい。

6 会議のまとめ

「令和7年度教育指導の重点及び学校経営計画」を踏まえ、各担当者から前期末における中間報告を行った。評価(A～D)については、昨年度の委員からの意見を参考に、前年度実績を評価の基準とせず、目標を達成しているかどうかで自己評価し、具体的な取組状況・達成状況や成果と課題、後期に向けての展望・解決方法について説明を行った。委員からは、業務のDX化、AIの利活用、タブレット端末利用に合わせた学習環境の改善要求について質疑と提案があった。本校はDXハイスクールに指定されており、ペーパーレス化を一層推進していくことを確認した。